

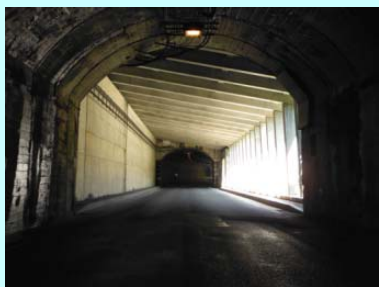


奥只見ダム建設用道路として作られたのが奥只見シルバーラインです。かつては道幅が狭く凹凸道でしたが、奥只見ダムの完成を機に観光道路とするため大規模な補修工事が行われ現在の姿になりました。今回は**奥只見シルバーライン**を紹介します。

豪雪地帯の 長大トンネル **奥只見シルバーライン**

長さ日本一のトンネル!?

全長約 22km の奥只見シルバーラインは約 18km がトンネルです。トンネルは 19 本あり、一番長いトンネルは約 4km ですが、トンネルとトンネルの間が短く、中にはスノーシェッドで繋がっている区間もあり長さ 10km 程のトンネルを感じる人もいます。これは長さ日本一の関越トンネルと同じくらいです。



トンネルがずれている!?

工事用道路（現在のシルバーライン）ができないと奥只見ダム建設が遅れてしまうことから、道路の建設は、走りやすさやきれいさより、早く完成させることが優先されました。トンネルは両方向から掘り進められましたが、少しズレが。銀山平出入口がある第 17 号トンネルは貫通地点で小さくカーブしています。



なぜシルバーライン!?

かつて奥只見で多くの銀が採れたことにちなみ「シルバーライン」と名付けられました。銀鉱山の多くは湖に沈みましたが、今でもいくつかの坑口を確認することができます（No.1 号に掲載）。

完成から 40 年が過ぎたシルバーライン。今でも安全に通れるのは点検と補修を細やかに行っているからです。



トンネル点検のスペシャリスト

奥只見シルバーラインの管理を委託されている株式会社レックス **森山 正一さん**



管理は 24 時間体制

路面の陥没や反射板（ライトで光るプレート）の欠損などの異常を確認する道路パトロールは週に 5 回、照明装置や排風機などの設備の巡回は週に 2 回実施しています。高所作業車なども使って、その場で直せるものは異常発見とともに直してしまいます。異常が出そうな場所、その際の応急措置の方法はおよそ頭に入っています。シルバーライン全体の管理も行って、非常電話の対応や、それに伴う通行止め、警察や病院との調整も一つの仕事です。管理は 24 時間体制。必ず管理室に管理者がおります。



平成 23 年 7 月豪雨による冠水。トンネル内に浮かべたボートで排水ポンプを運ぶ。



「深夜に連絡をもらうこともある。一目散に駆けつけますよ。」と森山さん。



トンネルが冠水?!

平成 23 年 7 月の豪雨では、土砂崩れによりトンネルの出入口が塞がれてしまい、行き場を失った湧水によりトンネル内が胸ぐらいの高さまで冠水してしまいました。トンネル内にボートを浮かべて確認作業を行い、排水ポンプを設置することでトンネル内の冠水を解消、土砂を撤去するための建設機械が入れる道を確認しました。1 日も早く開通させてあげたいという思いでしたね。



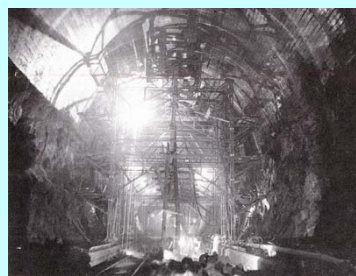
縁の下の力持ち

以前、シルバーラインを利用される方々にアンケート調査を実施した際、「いつもありがとうございます」という記入がたくさんありとても嬉しかったです。私たちの仕事は縁の下の力持ちのような仕事ですが、人のためになっていることを実感できた瞬間でした。間もなく紅葉シーズンを迎える奥只見と合わせて、私たちが自信をもって点検・補修しているこのシルバーラインも、楽しんでいただければと思います。

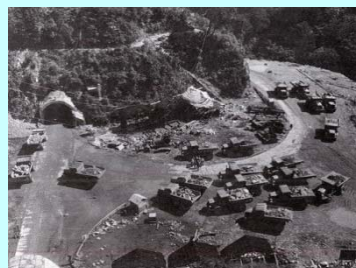
「奥只見シルバーライン」年表

- 昭和 29 年 6 月 資材運搬のための工事用道路（現在のシルバーライン）の測量が始まる。豪雪を避けるため全長 22km のほとんどをトンネルとした。
- 昭和 30 年 9 月 工事用道路の建設に着手。
- 昭和 32 年 2 月 表層雪崩により 9 名が亡くなる。一時的に道路建設中止。
- 昭和 32 年 11 月 工事用道路完成。奥只見ダム建設工事が本格化。
- 昭和 35 年 12 月 奥只見ダム発電開始。工事用道路はダム管理用道路として利用される。
- 昭和 44 年 所有者である電源開発(株)から新潟県に譲渡。その後、道路・トンネル拡幅工事開始。
- 昭和 46 年 8 月 有料道路「奥只見シルバーライン」の利用開始（昭和 52 年より無料開放される）。
- 平成 23 年 7 月 豪雨災害により一部通行止め。ただちに応急復旧し通行止めを解除。

※出典：『奥只見発電所建設工事工事記録』



掘削中のようす。硬い岩盤や冬期の寒さなどにより工事は難航しました。



トンネルが完成し、仕入沢からダム建設用の砂利を運搬するようす。

数字で見る奥只見ダム

約 6 年の歳月と総工費約 390 億円（工事用道路含む）を費やし完成した奥只見ダム。工事にはのべ 600 万人もの人々が従事し、魚沼は工事関係者で賑わい、旅館や料亭が立ち並びました。

【奥只見ダムの数字】

高さ：157m（第 5 位）

貯水量：6 億トン（第 2 位※1）

発電出力：56 万 kw（第 1 位※2）

※1：下流の田子倉ダムと合わせると 11 億トン

※2：揚水発電を除く

出典：国土交通省 HP、電源開発株式会社パンフレット



昼夜を通して行われた工事。写真はコンクリート打設のようす。

写真出典：『ふるさとのアルバム』

シルバーラインも魅力

平成 23 年 7 月豪雨のときは奥只見シルバーラインが通行止めになりました。崩れた土砂がトンネル内に流れ込んだり、道路ががけ下に崩れ落ちてしまったりと大変でした。ただちに道路の復旧が行われ 1 ヶ月ほどで通行止めが解除になったときは本当にありがたかったです。

また、普段から点検していただいているおかげでシルバーラインを安全に通ることができます。昔に比べればトンネル内は明るくなりましたし、反射板も取り付けられました。

シルバーラインは一般的なトンネルに比べれば薄暗く狭いトンネルです。トンネル内に急カーブもいくつかあり、そのカーブを曲がると真っ直ぐ道が延びているのですが出口は見えません。怖くなって引き返す方もいらっしゃる程です。それゆえに最後のトンネルを抜けて、目の前に広がる光景はより素敵に感じると思います。

奥只見はこれから紅葉のシーズンを迎えます。遊覧船から眺める赤く染まった山々と、それらが鏡のように映る湖面の景色は何度見ても素晴らしいです。秋が深まると初雪とのコントラストも見られます。日本を代表する奥只見ダム、そして特徴的なシルバーラインと合わせて、奥只見の世界をゆっくりと楽しんでください。



お話を伺った奥只見観光株式会社の富永雅仁さん。紅葉のシーズンは混雑が予想されるので時間に余裕を持ってお越しくださいとのことでした。



奥只見ダム全景。「ダムの地下には日本一の水力発電施設があり、事前に奥只見電力館に予約すれば無料でご案内してくれます。普段は入れないので貴重な体験ができますよ。」と富永さんから教えていただきました。

せせらぎのあと

台風 18 号により各地で被害が発生しました。魚沼でも魚野川の水位が「はん濫危険水位」を超え、避難勧告の発令や小出橋が通行止めとなるなどの事態となりました。一方で、台風一過の秋晴れが続いた日、佐梨川で魚を観察する子どもたちの姿がありました。とても楽しそうに、でも真剣に魚をさがす子どもたち。川は私たちにとって大切な場所だということを感じました。

発行
お問合せ

新潟県魚沼地域振興局地域整備部計画調整課

〒946-0004 魚沼市大塚新田 91-4 TEL:025-792-4071 FAX:025-792-7401

URL : http://www.pref.niigata.lg.jp/uonuma_seibi/ email : ngt111540@pref.niigata.lg.jp

